Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 25第36号
2025年（令和七年） 12月12日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

当週（12月4日～10日）の国際石油市場は、前半はウクライナ停戦交渉の難航・対ロ経済制裁強化の動き・米ベネズエラの緊張を主な要因に強含み、後半は逆に弱含みで、狭い範囲で推移した。

NYのWTI原油先物市場は、4日続伸の59.57ドルで始まり、5日60.08ドルと60ドルを回復したが、週明け8日には反落、9日続落の58.25+ドルの後、3日反発の58.46ドルで終わった。

また、中東産ドバイ原油/東京市場（12月渡し）も、前週（11月27日～12月3日）は63.20～64.30ドルの範囲で推移したが、当週は、12月4日63.70ドル、5日63.90ドル、8日64.50ドル、9日62.90ドル、10日62.40ドルだった。

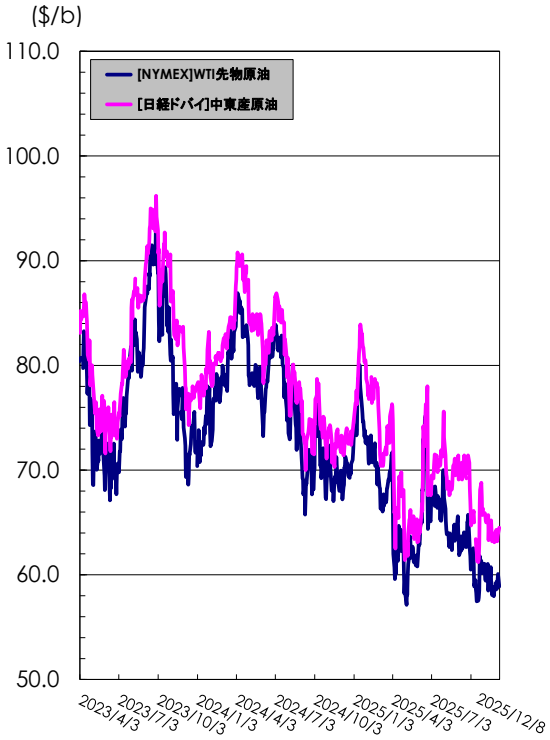
対ドル為替レート（TTM）は、前週（11月27日～12月3日）155.70～156.68円の範囲で推移したが、当週は、12月4日155.30円、5日155.15円、8日155.24円、9日156.03円、10日156.88円だった。

財務省が11月27日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、11月上旬の原油輸入平均CIF価格は69,360円/KLで前旬比1,197円/KL安、ドル建てでは72.61ル/Bで前旬比2.47ドル/B高、為替レートは1ドル/151.85円。

そのような中で、12月8日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比1.1円安、軽油も同0.7円安、灯油は同3円安（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は163.7円だった。

12月11日～30日の燃料油補助金の支給額は、ガソリンは25.1円に5.1円増額され、軽油は17.1円、灯油・重油は5.0円の据え置きとなった。

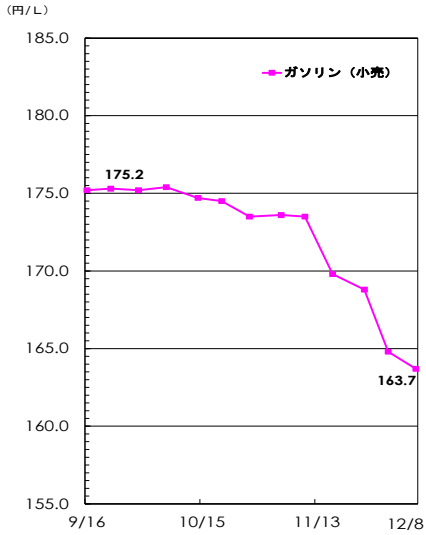
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	11/30 ～ 12/6	2,930	▲ 253	▲ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	84.7	▲ 7.4	▲ －
	原油在庫量	（千kl）	12/6	10,688	▼ -139	▲ －
価格	中東産原油（日経ドバイ）	（$/bbl）	12/9	64.50	▲ 0.20	▼ -6.9
	WTI先物原油（NYMEX）	（$/bbl）	12/8	58.88	▼ -0.44	▼ -9.5
	原油CIF単価	（$/bbl）	11月中旬	70.58	▼ -2.03	▼ -9.65
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	68,035	▼ -1,325	▼ -5,568
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	153.24	▼ -1.39	▼ -7.39
	外国為替TTSレート	（¥/$）	12/9	156.24	▲ 0.63	▼ -5.39



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	在庫		12/6	1,729	▲ 54	▼ －
価格	先物 [期近物/終値]	（TOCOM/東京湾）	12/2 ～ 12/8	72.0	▼ -6.8	▼ -8.0
		（TOCOM/中部）	12/8	70.0	➡ 0.0	▼ -13.0
	小売 [週動向]	（資エ庁公表）	12/8	163.7	▼ -1.1	▼ -12.0

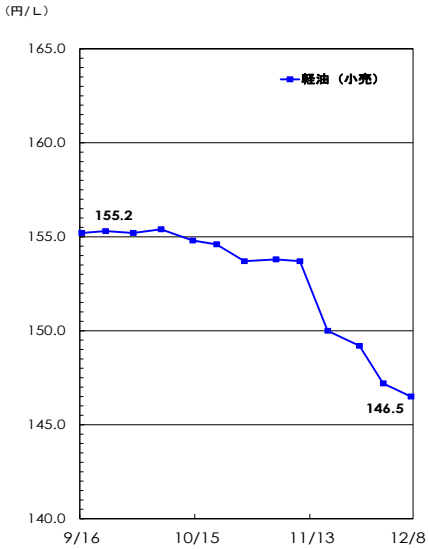
※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

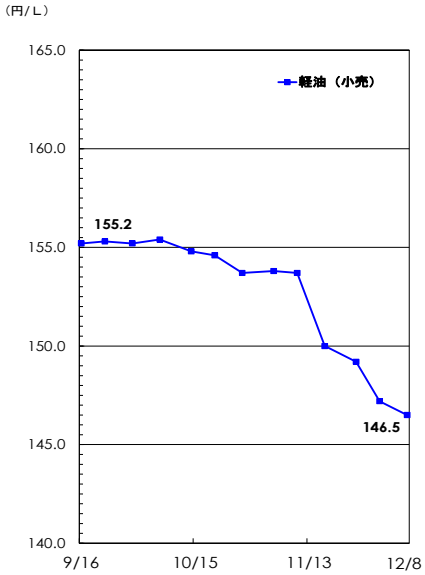
軽油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		12/6	1,363	▼ -25	▼ －
価格	先物 [期近物/終値]	（TOCOM/東京湾）	12/2 ～ 12/8	73.1	▼ -6.9	▼ -10.1
		（TOCOM/中部）	12/8	－	－	－
	小売 [週動向]	（資エ庁公表）	12/8	146.5	▼ -0.7	▼ -8.9

※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		12/6	2,371	▲ 21	▼ －
価格	先物 [期近物/終値]	（TOCOM/東京湾）	12/2 ～ 12/8	86.0	➡ 0.0	▲ 4.5
		（TOCOM/中部）	12/8	84.0	➡ 0.0	▼ -1.0
	小売 [週動向]	（資エ庁公表）	12/8	122.2	▼ -0.2	▲ 4.5



■ 関連情報

1　海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（11月20日～26日）のNYMEX・WTI先物市場は、58.55～59.32ドルの範囲で推移した。

当週12月4日は、ウクライナ和平交渉をめぐる停滞感、最近のウクライナ軍による黒海のロシア石油施設へのドローン攻撃に伴う石油出荷低下を反映し、続伸した。加えて、米国の利下げ期待の拡大も値上がり要因となった模様。1月物終値は前日比0.72ドル高の59.67ドル。

週末5日は、引き続き、ウクライナの停戦圧力としての米欧による対ロ経済制裁の動き、米国の利下げ観測に加え、トランプ大統領の麻薬輸出を理由とする米国によるベネズエラ地上攻撃懸念の拡大によって、3日続伸、60ドル台を回復した。1月物終値は前日比0.41ドル高の60.08ドル。

週明け8日は、週末の値上がりの反動、利益確定売りを反映、また、米国株式市場は軟化、投資家のリスク回避姿勢は、原油先物市場にも影響、4行日ぶりに反落した。また、ウクライナ停戦協議が注目される中、7日、トランプ大統領から停戦協議を巡り「若干の失望感」を表明された、ウクライナのゼレンスキー大統領は、この日、ロンドンで英・仏・独と首脳会談、米国提案について協議した。1月物終値は前週末比1.20ドル安58.88ドル。

9日は、翌日からの利下げをめぐる連邦制度理事会（FRB）の政策決定会合の行方、ウクライナ停戦協議や国際エネルギー機関（IEA）の石油市場報告（月報）をめぐり、様子見ムードが広がる中、続落した。為替市場のドル高も、原油先物の割高感から、売り要因となった模様。1月物終値は0.63ドル安の58.25ドル。

10日は、FRBが0.25%の利下げを決定、想定通りとはいえ、景気回復・需要増加の期待感から、また、ベネズエラ沖では米軍による同国タンカーの拿捕が報道されるなど、両国の緊張の高まりから、3営業日ぶりに反発した。なお、この日発表のEIAの米国石油在庫報告は、週末時点で、原油は市場予想を下回る取り崩し、ガソリン・中間留分は市場予想を上回る積み増しで、大きな影響はなかった。1月物終値は0.21ドル高の58.46ドル。

2　海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）の12月10日発表の5日現在の米国在庫週報によれば、原油在庫は前週末比180万バレル減と市場予想（230万バレル減）を下回ったものの取り崩しだったが、ガソリンと中間留分の在庫はそれぞれ640万バレル増（予想280万バレル増）、250万バレル増（予想190万バレル増）と、いずれも予想を上回る積み増しとなった。

EIAによると、12月8日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比4.5セント安の1ガロン2.940ドル（123.1円/㍑）と3週連続の値下がりで、ディーゼル小売価格も、前週比9.3セント安の1ガロン3.665ドル（151.1円/㍑）と3週連続の値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、感謝祭休日前日の12月5日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比6基増の413基であった。

3　国内/原油処理量

石連週報によれば、11月30日～12月06日に休止したトッパー能力は5.1万バレル/日で、前週に対して21.7万バレル/日減少した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は293.0万klと、前週に比べ25.3万kl増加。前年に対しては6.8万klの増加。トッパー稼働率は84.7%と前週に対して7.4ポイントの増加、前年に対しては2.0ポイントの増加となった。

4　国内/製品在庫量

12月6日時点の在庫は、前週に対してガソリン、灯油は積み増し、ジェット、軽油、A重油、C重油は取り崩しとなった。

ガソリンは172.9万kl、前週差5.4万kl増。前年に対しては10.5万kl少ない。

灯油は237.1万kl、前週差2.2万kl増。前年に対しては16.8万kl少ない。

軽油は136.3万kl、前週差2.5万kl減。前年に対しては9.2万kl少ない。

A重油は78.4万kl、前週差0.7万kl減。前年に対しては3.2万kl多い。

C重油は159.7万kl、前週差2.4万kl減。前年に対しては2.5万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (12/6)	前週 (11/29)	前週比	
ガソリン	1,729	1,675	▲ 54	(3%)
ジェット燃料	779	806	▼ -27	(-3%)
灯油	2,371	2,350	▲ 21	(1%)
軽油	1,363	1,388	▼ -25	(-2%)
A重油	784	791	▼ -7	(-1%)
C重油	1,597	1,621	▼ -24	(-1%)
合　計	8,623	8,631	▼ -8	(-0.1%)

5　国内/元売会社製品卸価格

12月2日～9日のドル建て中東原油価格は前週比わずかに値上がりしたが、為替レートの円高がこれをほぼ相殺し、11日からの元売会社の卸建値は横ばいだったものと見られる。

さらに、12月11日からの揮発油の補助金は、5.1円増額で計25.1円となり、暫定税率廃止に伴う減税額と同額になった。他の補助金は、軽油が17.1円、灯油・重油が5円で据え置きだった。

6　国内/製品小売価格

12月8日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.1円安の163.7円、軽油も同0.7円安の146.5円、灯油は18㍑ベースで同3円安の2,200円（1㍑ベースでは同0.2円安の122.2円）。ガソリンは5週連続の値下がり、軽油も5週連続の値下がり、灯油は2週連続の値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりはなし、横ばいは2県、値下がりは全45都道府県だった。全国最安値は愛知県の157.2円、その次は埼玉県の158.1円であった。他方、最高値は鹿児島県の175.0円。最も値下がりしたのは沖縄県（前週比4.3円安）、横ばいの県は長野県と岡山県だった。

次回調査時（12/15）のガソリンの小売価格は、値下がりが予想される。

（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(12/8)	前週　(12/1)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	163.7	164.8	▼ -1.1	2023/9/4 2025/4/14	186.5
	灯油	122.2	122.4	▼ -0.2	08/8/11	132.1
	軽油	146.5	147.2	▼ -0.7	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）に掲載しています。
次回（2025第37号）の公表は、12/19（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈 WTI先物原油、中東産原油 〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。 ※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。